

山形の農業をめぐる動き

(日本農業新聞などから)

1月	5日 県知事選で吉村美栄子知事が無投票3選 11日 J Aグループ山形の初級職員124人が日本農業検定を受検 24日 プレミアムつや姫、天童市で初の産地コンテスト 28日 J Aバンク山形県が初の土曜日統一ローン相談会
2月	15日 県が新年度の当初予算案発表。農林水産関係、約409億円 16日 県産米新品種「山形112号」を「雪若丸」と命名 23日 県産米「はえぬき」、食味ランキングで23年連続特A逃す 24日 第27回 J A山形県大会決議実践推進大会 25日 親子で山形の食と農を考えるつどい(J Aグループ山形)
3月	3日 「米沢牛」地理的表示(G I)保護制度登録 16日 県有機農業推進フォーラム 17日 J A山形中央会が第67回通常総会 21日 大学生ら対象に合同職場説明会(J Aグループ山形) 27日 県内3農業共済組合(N O S A I)の合併、知事が認可 30日 J Aてんどうが天童市、ヤマト運輸と災害時支援協定 31日 県が山菜・きのこブランド化戦略策定
4月	1日 J Aグループ山形地域・担い手サポートセンター体制強化 14日 主要農作物種子法廃止法成立。2018年4月廃止へ 18日 山形さくらんぼブランド力強化推進協議会設立 20日 J Aグループ山形信用・共済事業合同推進大会 21日 「東根さくらんぼ」G I 保護制度登録 J A全農山形園芸事業改革元年キックオフ大会 24日 J Aやまがた山形南支店オープン 27日 女性農業者の相談窓口開設(やまがた農業支援センター) 30日 県アグリウーマン塾開講
5月	5日 鶴岡市で水稲新品種「雪若丸」の直まき実演会 8日 県農地中間管理機構が借り手募集開始 9日 県、県警、J Aグループが農作物盗難防止対策会議 J Aてんどう総代会で伊藤いち子さんが初の女性議長 19日 改正土地改良法が成立 県、J Aなどがさくらんぼ厳選出荷プロジェクト会議
6月	5日 山形市で第7回日本さくらんぼ産地総決起大会 山形市を主会場に第8回国際アウトウシンプodium。～9日 7日 J Aみちのく村山組合長に折原敬一氏(63) 県産米新品種「雪若丸」の生産組織集開始 南陽市で J A山形おきたま広域集出荷施設着工 13日 県山菜・きのこ振興会設立 J A山形市組合長に大山敏弘氏(60)、初の女性役員2人誕生 14日 県農業経営発展支援協議会設立 県が「やまがた有機農業の匠(たくみ)」19人を初認定 20日 東根さくらんぼ「佐藤錦」、東京・築地市場で1kg30万円 26日 日欧E P Aで特別決議。J A山形中央会臨時総会 27日 日欧E P A、米政策で国会議員に要請(J Aグループ山形) 29日 ミニトマト「アンジェレ」初出荷。酒田・ファーム北平田

7月	3日 最上地区3 J A合併推進協議会設立 6日 日欧E P A大枠合意 8、9日 鶴岡市で第3回全国メロンサミット 13日 県産米新品種「雪若丸」のロゴと米袋のデザインなど発表 14日 日欧E P A大枠合意で緊急報告会(J Aグループ山形) 県認定農業者協議会設立 24日 県産種雄牛「幸花久」公開(県畜産試験場) 25日 長澤豊氏が J A全農経営管理委員会の会長に就任
8月	1日 農業競争力強化支援法施行 3日 第3次安倍改造内閣発足 7日 オール山形・農業経営発展キックオフ交流会 8日 第21回全国農業担い手サミット準備委員会発足 9日 2016年度の食料自給率38%と農水省発表 18日 山形県農業労働力確保等対策推進協議会設立 23日 J A山形市の大山敏弘組合長らがイクボス宣言 25日 鶴岡市で第53回東北農業経済学会山形大会
9月	1日 最上地区3 J A合併後の名称「もがみ中央協」愛称「J Aおいしいもがみ」と内定 11日 米需給安定へ水田農業政策確立要請集会(J Aグループ山形) 23日 県産米新品種「雪若丸」先行販売オープンイベント 24日 山形市で長澤豊 J A全農会長就任祝賀・激励会
10月	5日 第33回農業高校生小論文コンクールで村山産業高の 笹原龍平さん最優秀 10日 第48回衆院選公示 11日 県議会が国に米政策で意見書提出を可決 13日 J Aバンク山形県、初の年金振り込み日感謝サービス拡大 16日 岸宏一参議院議員死去。77歳。県農業会議会長 17日 新規就農者最多309人と県が発表。2017年度調査 18日 6次産業ビジネス・スクール開講 22日 第48回衆院選。自民圧勝。県内3小選挙区も自民独占 23日 山形市で食育県民大会 25日 J Aてんどうの山崎紀子さん、プレミス活動「わたしの一步」 作文コンクールで最優秀賞 26日 最上地区3 J Aが合併準備契約に調印 西洋梨「ラ・フランス」予冷品統一販売開始 鶴岡市で県農業委員会大会
11月	7日 第36回県土地改良大会 10日 新庄もがみ、山形もがみ、真室川の3 J A 臨時総会、総代会で合併関係議案承認 11日 米国抜き T P P 11カ国、新協定大筋合意 13日 J Aあまるめ地域支援事業に厚労省老健局長優良賞 16日 5人1団体に県農業賞、2人に県林業賞 19日 親子で山形の食と農を考えるつどい・酒田(J Aグループ山形) 26日 親子で山形の食と農を考えるつどい・山形(J Aグループ山形) 食と農のマッチング交流会(食産業クラスター協議会など)
12月	3日 J A山形県青年大会(山形市) 8日 県 J A女性組織協議会がフードドライブ(予定) 11日 農業高校生小論文コンクール表彰式(予定) 15日 県農業再生協議会臨時総会(予定) 21日 米政策関連施策に関する県と地域農業再生協議会の合同会議 農業者に係る青色申告研修会スタート(予定)

輝いた「オール山形」 県内農業この一年

担い手不足が課題となる中、2017年度調査の新規就農者は309人と過去最多となった。10年度から8年連続200人超えが続く。農家以外からの新規参入者が増え、農業法人などへの雇用就農が全体の約6割に増加した。国の支援に加え、オール山形によるきめ細かな支援の成果だ。

来年デビューする県産米新品種「山形112号」が「雪若丸」と命名され、9月に先行販売された。米国・ハワイなど海外でも高い評価を得ている「つや姫」と、日本穀物検定協会の食味ランキングで22年連続特A記録を持つ主力の「はえぬき」と共に県産米のエースに。

日本一のサクランボを不動のものとするため、県とJ A、青果市場など約50団体が4月にブランド力強化推進協議会を設立。販売目標金額1億円の大規模園芸団地整備計画も始動し、J A全農山形は4月に園芸事業改革元年キックオフ大会を開いた。園芸産出額の伸び

率に全国トップを行く。歴代県産種雄牛で最高肉質を誇る「幸花久(ゆきはなひさ)」が7月にデビュー。「米沢牛」と「東根さくらんぼ」が相次いで農水省の地理的表示(G I) 保護制度に登録された。

J Aグループ山形を率いる長澤豊氏が7月、J A全農経営管理委員会の会長に就任した。J A全国組織トップは県内初。2月には第27回 J A山形大会決議実践推進大会が開かれ、創造的自己改革に向け、課題の検討が続いた。J Aグループ山形地域・担い手サポートセンターの体制も4月一段と強化された。

食と農のマッチング交流会が初めて開かれ、県農業法人協会と県地域営

新規就農最多 好評の雪若丸

J A全農会長 長澤氏が就任

食と農の価値 未来につなぐ

「オール山形」の掛け声が、今年も多くの場面で聞かれた。生産者や行政、J A、消費者を含めた関係者が、経済的尺度だけでは計れない価値観を共有し、食と農や地域の将来を見詰めた。小規模農家や中山間地への目配りも忘れない。経済最優先の成長戦略で、米政策見直しなど一方向的な農政の転換や市場開放の流れが止まらない中、助け合い、支え合う協同の精神がひととき輝いて見えた。模索が続く山形の農業の一年を振り返った。



米政策見直し要請集会で国の関与を強く求めた(9月)



J Aグループ山形地域・担い手サポートセンターの体制が拡充された(4月)



J A全農山形園芸事業改革元年キックオフ大会(4月)

農法人協議会がオール山形・農業経営発展キックオフ交流会を開いた。深刻化する農業労働力確保、経営力やブランド力強化、食と農の大切さを未来に伝える食農教育などでもオール山形による取り組みが続いた。

◇
平成の時代は19年4月まで終わることが決まった。各国の多様な農業の共存や農業・農村の多面的機能重視の政策は忘れられ、再三の農政の大転換で不安と混乱、無用の対立を招く状況が続く。地方の地道な努力を無にしない、温かい血の通った農政を強く求めたい。



最上地区3 J Aが合併準備契約に調印した(10月)



親子で山形の食と農を考える(11月)



県産米新品種「雪若丸」の命名を披露する吉村知事(2月)



営々たる風格でデビューした県産種雄牛「幸花久」(7月)



「米沢牛」のG I登録で牛枝肉市場は活気づいた(4月)



G I登録「東根さくらんぼ」も名産を高めた(6月)



J A全農会長就任で祝福と激励を受ける長澤氏夫妻ら(9月)